



Rotary



東京八王子西
ロータリークラブ

Report

2020~2021 No.12 令和3年4月23日

●会長標語

会長 金子 裕二

集まろうロータリー

今週のプログラム

- 第2637回 (4/23)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*卓話：管理栄養士 早川洋子 氏
「母子の健康について」

次回のプログラム

- 第2638回 (5/7)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*三祝
*インシエーション・スピーチ
安田 新 会員

会員卓話「ロータリーの奉仕活動」



馬場榮次 会員

久しぶりに卓話ということ
で、こういう機会を与えていた
だいたプログラム委員長に感謝
を申し上げると同時に、3か月
も待たされましたので非常にド
キドキして待たせていただきました
した。プログラム委員長からは、
職業奉仕について話をしてくれ
たいというご下命でございました。
私にとって、職業奉仕の話をす
ることはすごく難しいんです。い
ろいろ考えたんですけど、新しい
会員も入ってきていますので、当
クラブのこれからの奉仕活動の
ヒント、参考になればいいと、過
去に振り返って、ロータリークラ
ブの奉仕活動として話をさせて
いただきます。その中で職業奉
仕も取り上げていきたいと思っ
ております。また、後半は岡本
会員の職業奉仕についての卓話
がございますので、私はその前

座として相努めてまいりますの
で、よろしく願っています。
皆様のボックスに先週これが
入っていたと思いますが、ロータ
リーの友という雑誌の4月号6
ページに「ロータリーとは」とい
う、毎回同じような文章が載っ
ています。そもそもロータリーと
は何なのか、ということから話さ
ないと、話が進みませんので、
ちよつとさかのぼって話をさせ
ていただきます。

もうご存じだと思いますけれ
ど、20世紀の初頭1900年の
時代に、シカゴの町で、社会経済
が発展していく中、商業道徳の
欠如、そういう社会の中で、1人
の青年弁護士ポール・ハリスがシ
カゴに事務所を開いて、その現
状を憂いて、何とか公正な取
引、商業道徳を守った公正な取
引をするような社会を実現し
なければいけないのではないかと
いうことで、友人と語らって、
そういう社会を作ろうという会
合を持つことになりました。3
名で会合を、それぞれの事務所
で持つ輪番制ということで、ロー
タリーという会合の名前がつけ
ましたということがここに記載
されています。そしてそういう中
で、ロータリーは、現在まで12
0年くらい続いてきて、今現在

の状況になっているということ
でございますけど、1905年に
初めてシカゴでロータリークラブ
ができました。そして、ロータリー
というのは、職業において、高度
の道徳水準を守る人たちの集
まりということからスタートして
います。そうするとどうしても
ロータリーの特徴としては、さき
ほど、最初に述べました職業奉
仕ということが非常に重要な
テーマになってくるわけで、今後
の話がそれに続いていくんです
けれど、そういう流れの中で、
ロータリーが奉仕活動をしてき
たということでございます。

ちよつと脱線しますけれど、
この「ロータリーの友」という雑
誌の購読を皆様方はしています
が、これは任意でしているのは
なく、義務でございます。ロー
タリアンの3大義務は、皆さんご
存じの通り、例会に出席する、
会費を納める、そして、この雑誌
を購読するということなんで
す。購読ですのでも買うだけでは
だめで、読まないといけない。私
もほとんど読んではいないけれ
ど、例会の時にはもうと、ちらつ
と見ますが、それぞれの奉仕活
動にロータリーとして何をなすべ
きかということが書かれていま
すので、当クラブの奉仕活動を

考えるとき参考になるのではな
いかと思います。
そして、日本のロータリーは、
1905年の15年後、1920
年に東京ロータリークラブが創
立されまして、翌年国際ロータ
リーからも承認を受けています
けれど、戦争があつたために、1
940年に国際ロータリーを脱
退しております。約10年後、49
年に再度加盟が認められて、現
在に至っている。ということ
で、非常に多くの優秀な人材を世
界に排出をして、ロータリーの奉
仕活動事業について、多大な貢
献をしている。そして来年はま
さに、わがクラブの中心的メン
バーであります三浦君が、地区
のガバナリーということ、さらに
私共のクラブの力を地区にま
で、また国際ロータリーの場で反
映してくださるのではないかと
いう風に思っておりますし、東京
八王子西ロータリークラブも今
年で55年。55周年記念の事業、
記念例会を黒須弘道実行委員
長のもとで、開催されるという
報告が先ほど会長からありまし
た。55年の長い歴史の中で、様々
な事業をしてきております。こ
の事業を一つひとつ振り返って
みると、また新しい事業をする
参考になるんじゃないかという

ことで、お手元には一覧表を、全部は書けませんでしたので、31代から50代までの会長の年度の事業を記載しておきました。また後で、その辺は説明させていただきます。と思っています。

ロータリーとは？

そもそもロータリーとは何かといわれます。我々が入ったころ、マイフレンド ロータリー情報という冊子があるんですけど、でも、それを読めということでも、買われました。その中に、英文を翻訳しているの、日本語として通じにくいところもありますけれど、ロータリーとは何かというところ、こういう風に記載がされており、「人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において、高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ、世界における親善と、平和を確立することに寄与することを旨とした事業及び専門職務に携わる指導者が、世界的に結び合った団体である。」という風に、記載をされています。これを細かく分解していくと、ロータリーとは何かということが大体わかってくるんだらうと思います。まず人道的な奉仕をするべきだ、ということ、職業において各会員が、職業人として高度の道徳的水準を確保する。そして確保したも

のをそれぞれの人に分かち与えるというような運動をしろ、ということだろーと思えます。そして、当然国際奉仕との関係もありますので、世界の親善と平和に寄与しようということと、特色としては、事業及び専門職務に携わる指導者の集まりだ、これも世界的な集まりだということ、ここに職業分類の重要性が出てきますけれども、今の時代だんだん職業分類も形骸化されてきています。元をただせば、そういう職業分類が非常に大切な、そして奉仕も大切なことだったんですけれども、時代の流れとともに変わってきております。そうするとロータリークラブは何かと皆さんが説明するとき難しいんだろーと思えますけれども、そのマイフレンドには、奉仕の理想を各人の個人生活、職業生活、社会生活の実践の基盤とすることに同意した人たちが、こういう人たちが集まった事業及び専門職務に携わる人たちのクラブだ、という風に記載されている。これは何かというと、奉仕の理想をいろいろな生活の場で実践するとき、奉仕の理想を実践することを基盤として生活をしなさいということなんです。では、奉仕の理想って何なの、ということになるうかと思えますけど、奉仕の理想については、マイフレンドにも

公式な定義はないんです。大体わかると思えますけれども、一つの参考例として、こういう記載があるんです。「ロータリークラブは一つの基本的理想を持つている。それは、奉仕の理想で、他の人々を思いやり、他の人々にとつて役立つことをすることである。」という風に書かれていることを考えると、奉仕の理想というのは、よいことをすることなんだけれども、単に良いことをするだけではなくて、他人に役立つことをしることが奉仕の理想ということ、それを指して活動するのがロータリークラブであるという風にどうも昔の資料による

1996~2016年代 東京八王子西ロータリークラブの重点奉仕活動

年代	会長	事業	備考
1996年7月 ~1997年6月	第31代 加藤政利	環境ミーティング(ストップ・ザ・ポイスト運動) 「留学生と語る八王子の街」パネルディスカッション 「長寿社会対策の集い」	6委員会合同事業 実行委員会
1997年7月 ~1998年6月	第32代 上野 了		実行委員会
1998年7月 ~1999年6月	第33代 岡田俊郎	「育てよう地球社会の子供達」 ①青少年の非行防止~少年センターへの誘致 ②青少年に夢と感動を~中学生の作文募集・台中RCへのホームステイ	実行委員会
1999年7月 ~2000年6月	第34代 小澤元巳	青少年センターの誘致に伴うPR活動 同級補助金事業~モンゴルへの現地調査	重点事業委員会
2000年7月 ~2001年6月	第35代 田中睦男	「モンゴル国における教育環境整備事業」創立35周年記念式典・モンゴル親善フェスティバル・東京交響楽団演奏会 健康チェック事業(血圧測定)	(創立35周年) 実行委員会 職業奉仕委員会
2001年7月 ~2002年6月	第36代 石田初雄	「いきいきゲートボール大会」 「親子で学ぶ工作教室」	4委員会
2002年7月 ~2003年6月	第37代 青山利明	「留学生支援チャリティゴルフコンペ」 「八王子21大学留学生日本語弁論大会」	実行委員会
2003年7月 ~2004年6月	第38代 関谷芳弘	「子供たちに科学の夢を」~ICを使った電子プログラミング教室「第2回八王子21大学留学生日本語弁論大会」 「台中RCとのWCS活動」	4委員会
2004年7月 ~2005年6月	第39代 田辺隆一郎	「第3回八王子21大学留学生日本語弁論大会」 「台中RC創立50周年式典」への参加	4委員会
2005年7月 ~2006年6月	第40代 山田司郎	「創立40周年記念式典」「環境保全・高尾の森づくり」 「留学生奨学金支援チャリティゴルフ大会」	(創立40周年) 実行委員会
2006年7月 ~2007年6月	第41代 馬場栄次	「水と緑のプロジェクト(環境保全)」 「まちを知る川に親しむ手と心」~浅川の水质調査	職業・社会・国際 新世代・環境保全
2007年7月 ~2008年6月	第42代 河西幸幸	「子どもたちに科学の夢を！」 「親子で親しむ紙工作・リモコンロボット教室」	4委員会
2008年7月 ~2009年6月	第43代 黒須弘道	「子どもたちに科学の夢を！」 「親子で親しむサイエンス・不思議発見！」	4委員会
2009年7月 ~2010年6月	第44代 程崎 博	「守ろう！湧水・伝えよう！水文化」 「湧水ウォーキング」と「湧水と水文化フォーラム」	実行委員会
2010年7月 ~2011年6月	第45代 石井昭久	「環境保全」 「創立45周年記念式典」 「八王子駅前口に記念碑をセッティング」 「未来を託す子どもたちへ~化学実験の実施」 東日本大震災の義援金3000万円の寄付	(創立45周年) 全体事業委員会
2011年7月 ~2012年6月	第46代 野口文明	「わたしのふるさと八王子」作文コンクール	全体事業-4委員会 (職業・社会・国際・新世代)
2012年7月 ~2013年6月	第47代 三浦眞一	「読書感想画・感想文コンクール」 「台湾八王子ジュニア国際交流フレンド訪問団」	全体事業-4委員会
2013年7月 ~2014年6月	第48代 倉田 正	「読書感想画・感想文コンクール」 「台湾八王子ジュニア国際交流フレンド訪問団」	(例会会場移動) 全体事業-4委員会
2014年7月 ~2015年6月	第49代 大石和春	「読書感想画・感想文コンクール」 「台湾八王子ジュニア国際交流フレンド訪問団」	(台中RC創立60周年) 全体事業-4委員会
2015年7月 ~2016年6月	第50代 塚本達二	「読書感想画・感想文コンクール」 「台湾八王子ジュニア国際交流フレンド訪問団」	(創立50周年) 4委員会

と書かれており、昔は、奉仕のあり方について、どうもロータリークラブの中で、アメリカにある国際ロータリーの本部の中で、論争が生じていました。それはどうということかという、会員の心の中に奉仕の心を形成することが、ロータリー運動の本質だ、という人々と、奉仕の活動の

うことで、盛んになってきたのがロータリーであるという風に考えております。そしてロータリーには4大奉仕として、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕というのがあって、この各奉仕活動は定款細則によって、常任委員会、必ず委員会を作つて取り組み、活動をするという風に言われております。

これからの奉仕事業

そういう中で、東京八王子西ロータリークラブもいろいろな活動をしてきました。委員会として、これ以外にも、会長が特別

に一定の分野で開催できる委員会を設置できるという規定が細則にございまして、その主なものが、新世代委員会を設置することができるというもので、当クラブも4大奉仕の後に、新世代の委員会が設置されて活動してきております。その他、特別に設置することができものが環境保全の委員会だとか、世界社会奉仕委員会とか、米山R財団という委員会も当然設置ができるということです。そこで当クラブ振り返ってみますと、本年55周年ということございまして、過去にいろいろな事業をしてきました。その事業の一覧表をここに配りました。環境、国際、社会、新世代、こういったものの事業がこの中で、31代から50代までの会長で、たくさん行われています。どうい風に行われたかという事業の取り組み方は、実行委員会という全員で取り組んで、その年度の重点事業としてやろうという事で取り組んでいる事業と、4委員会合同の事業としてやろう、特に先ほど言った職業、社会、国際、新世代、この4委員会が企画発案して事業を考えた実際にやる時は全員で取り組んでいくというような事業を指してもらっています。それがこの表で、実行委員会形式あるいは4委員会形式で行われている

というようなことが記載されている。特にうちのクラブでは、多いのは新世代に関する、子供たちに関する事業、これは社会奉仕とも絡んでいますけれども、新世代の事業が非常に多いです。後半になりますと、大変に有名な読書感想画、感想文コンクール、国際の事業としては、台湾の国際交流フレンド訪問団という事業、それから、留学生の弁論大会、留学生支援のチャリティーゴルフ、そういったものが行われてきました。職業奉仕と絡むのが、子供たちに対して、国立高専と一緒にやった事業で、工作だとか、化学だとか、そういったものも行われてきています。それからあととは、留学生と語る、パネルディスカッションなどをやりながら、弁論大会につながってきたという経過もあります。モンゴルへの教育事業、タイの水道事業などにつながっております。是非皆さん過去の事業を参考にしながら、新しい東京八王子西ロータリークラブの奉仕事業というものを考えていただいて、さらにクラブが発展されますよう、ご活躍をお願いしたいと思えます。古い会員はそろそろ引退の時期になりますので、若い皆さん方に期待させていただいて、私の卓話を終わらせていただきます。

皆さんこんにちは。坊さんの格好をして参りました。坊さんとしての職業奉仕を、今日実践をさせていただきたいと思えます。まず、皆さんにお願いしたいことがありますが、合掌をしてください。コロナ禍で何人かお亡くなりになっている。最近秋間正好会員が亡くなったり、あるいは鈴木さんの奥様が亡くなったり、お身内の方を亡くされた方もあると思えます。3月は春のお彼岸がありますし、昨日4月8日は、花祭りです。先に逝かれた方をしのびながら、皆さん手を合わせてください。

私これからお経をあげさせていただきます。

奉請弥陀如来入道場散華樂
奉請釈迦如来入道場散華樂
奉請十方如来入道場散華樂
願以此功德 平等施一切

同発菩提心 往生安樂國
はい、合掌をおとさしてください。日本人にとって、仏教徒にとつて、誠に大切なことでもあります。手を合わせるということ、それがどうという思いをおこさせていただくと同時に、仏様のことを思う。念仏という、これは南無阿彌陀仏を唱えるということ、念仏と言いますが、仏様を念ずる、ここが一番大事なところであります。

余計なことではありますがけれども、つい最近、菅総理大臣が、福島に行かれた時に、亡くなった方のことをしのいで、黙とうされています。黙とうというのは、皆さんも経験があると思えますが、菅総理大臣は黙とうをされる時に、手を合わせておられまして、何をどう思つたらいいか。

会員卓話「コロナ禍におけるお寺のあり方」

2021年4月9日



岡本信之 会員



浄土真宗ではご本尊は阿彌陀如来という仏様です。真言宗や曹洞宗やいろいろな宗派に縁のある方もいると思いますが、それぞれの宗派のご本尊のお姿を、手を合わせる際には、思い起こしていただきたいと思うのであります。仏様を思うということ、ここに手を合わせるということは、非常に大事な点があります。お経というものは、亡くなった人のためにあげるものではなく、生前にあげられるもの、残された生きていくもの、お経の声を聴いて、よかつたなという安心を教えられるのが、お経であります。亡くなった人のためではなくて、生きていく私たちのため。また、死んでいかなければならない私たちのためのお経であるということ、どうか心の中にとめておいていただきたいと思えます。亡くなった人はお経の声を、こちらでいい声でお勤めをしても、聞くことはできないではありません。聞こえるのは生きていく私たちであります。

今日のタイトル「コロナ禍におけるお寺のあり方」、時間が5分しかないですが、関係がどこにあるのだろうかと思われた方もいると思います。職業奉仕とコロナ、寺のあり方。コロナは世界中に感染して蔓延しておりますけれども、世界中の人たちが不安で心配しておられるではありません。仏教の教えからすると、いつの時代にあつても、この娑婆世界、わたくしたちが生きる世界は、色々な苦しみがあります。コロナだけじゃなくして、それこそ皆さんの家族の中で、病床に伏している方もいるかもしれない。子供の教育でいろいろ悩んでいる方もいるでしょう。いろんな悩みや苦しみが尽きないのがこの娑婆世界であるということ、彼岸ということを先ほど申し上げましたけれど、彼岸というのは本来「到彼岸」というて、かの岸にいたるということ、かの岸にいたると、この娑婆世界、此岸からかの岸にいたるということは、悟りの世界ということ、これが何のことかわかりにくいと思えますが、仏様とならせていただくということであり、私たちが、煩惱の火が燃えさかっている私たちが、仏様にならせていただくということが、到彼岸ということ、です。徳川家康、大河ドラマで出てきますが、徳川家康が戦をするときに、ちよつと難しい言葉ですが、「厭離穢土、欣求浄土」「厭離」ということは、厭い離れるということ、で「穢土」というのが、濁った土、つまりこの娑婆世界を言います。この娑婆世界から浄土をいねがう、欣求浄土、その旗を掲げて、家康は戦に向かっています。

八王子にも六万遍という地名がありますが、六万遍というのは、浄土宗の宗祖法然上人が1日に六万遍念仏を唱えたというところから、この地名が出ています。家康も大きな掛け軸に、実際には1万2千と言われているかもしれませんが、1万2千の南無阿彌陀仏の六字の名号を家康自身が直筆でだーつと書いてある軸を私見たことがあるんですけれども、そうやって欣求浄土にいたる道をどうすればいいのかというのを、家康もかの岸にいたるといふ道に行くにはどうしたらいいのか。とにかく坊さんとして伝える使命と申しますか、このコロナ禍にあつて、いろんなことにぶつかっていくけれども、どんなことにぶつかつても、私にはこれがあるから大丈夫と言え、人生を歩んでいきたいものである、これがあるから大丈夫と言え、この大きな安心に恵まれていく道が、この仏様を思う、仏様を信ずる、仏様が私たちの苦しみや悩みを必ず救いとるぞというその願いを、この仏様のお姿というのを、手を合わせて、優しいお顔で私たちを見ておいてくださるので、仏様が私たちを救うことを願つておつてくださるということ、ここをしっかりと心の中にとめていきたいと思えます。手を合わせるということ、その仏様の大きな願いを自分のこ



2021.4.13 三浦眞一がバナーエレクト 激励会

ととして受け止めていくということであり、最後に、仏教に熱心な方が、詠まれた歌があるんですけれども、これから先の日暮しは幸か不幸か知らないがどちらになつてもよろしいと、確かな覚悟ができました。確かな覚悟というものが、自分で持つとするのではなく、その仏様の大きな働きをしっかりと受け止めていくところに、いつどこになつても、息が切れ、仏とならせていただくことが約束されておるんだよという、ここに本当に確かな覚悟、何があつても大丈夫という大きな安心と力を恵まれていく。お時間が来ましたが、お話したいところですが、次の機会がありましたらまたよろしくお願いたします。

例会報告

第2065回 2021.4.9 (金)

◇司会 角田会場監督補佐



司会
角田会場監督補佐

◇開会点鐘 金子裕二会長

◇Rソング 我らの生業

◇食事と交歓 和食

◇出席報告 坂下出席委員



出席報告
坂下出席委員

会員109名中69名出席。
出席率69・70%。前々回3月26日の出席率60・61%を71・72%に修正します。

◇ニコニコ発表 大田財務委員



ニコニコ発表
大田財務委員

◇会長挨拶 金子裕二会長



会長挨拶
金子裕二会長

*5月21日に創立55周年の例会をします。また、中町にて

きた「まち・なか休憩所八王子宿」に時計を寄贈することになりました。当日は記念式典の前に現地で除幕式を行う予定です。この時計は和の建物に合うように赤い蛇の目傘をモチーフにしています。そして、記念講演にはJAXAのはやぶさ2プロジェクトチームのサブマネージャでいらつしゃる中澤暁氏に宇宙についての話をしていただき、その後懇親会という流れになります。14:30受付開始ですので是非たくさんの方々にご出席いただければと思います。

れました。
*本日ボックスに、ウィークリー11号と地区大会のリーフレットを入れました。地区大会ですが皆さんはオンライン参加になります。詳細については後日お伝えします。

◇スピーカー紹介
蔵本職業奉仕委員長



スピーカー紹介
蔵本職業奉仕委員長

◇会員増強賞贈呈

塚本達二会長、萩原照久会員、関 和之会員、草間剛会員



幹事報告
中村晋也幹事

◇幹事報告 中村晋也幹事

*エジプトからの米山奨学生のエ

ルコリー・ハデイル サード

ハッサンモハンマドさんを受け

入れることになりました。出

国申請を済ませてますが入

国がまだできておりません。

*先日台湾で大きな列車事故

がありました。台中RCより

り会員は無事との連絡があ

りました。

*次年度地区出向者の追加に

ついての持ち回り理事会で、

塚本会員、岡本会員、関会

員、池田会員の出向が承認さ



◇ポールハリスフェロー

感謝状、バッチ贈呈

田中伸幸、山本正光、西川誠

治、岡本信之、及川久男、坂

下幸夫、小杉吉己、村内道

昌、杉本勝義、馬場榮次、樫

崎博、塚本達二、森明、野口

文男、倉田正、菊池功、大石

創元、鈴木重春、安藤馨、赤

上晃、城所正雄、諸星宗幸、

加藤政利、田辺隆二、関谷

芳弘、河西成幸、石井昭久、

安藤謙治、黒須弘道、萩原照

久、宮澤徳光 (順不同・会員敬称略)

ニコニコボックス

●2021.4.9 (金)

◇金子会長・馬場パスト会長、岡本会員の卓話楽しみにしています。

◇中村幹事・馬場榮次パスト会長・岡本信之会員の卓話楽しみにしています。

◇三浦眞一・誕生祝いをいただきましたので。

◇石井・カミさんの誕生祝い先週頂きました。有難う御座いました。

◇西川・本日の卓話をして頂く馬場先生、岡本住職のお話を楽しみにしております。

◇蔵本・卓話楽しみにしています。

◇原蔵・年男祝ありがとうございました。

◇岡本・職業奉仕させて頂き



会員卓話「中心市街地の活性化とまちづくり」

2021年4月16日



田辺隆一郎 会員

現在進めております、八王子市の中心市街地活性化基本計画というのが、平成30年3月に国の認定をいただきました。その基本計画の事業に基づいてこのプロジェクトを進めているところでございます。これは、国が地域経済活性化に資する為中心市街地活性化に大変力を入れて進めている。その中の一つでございます。

私は以前から、まちづくりというものは、官と民とが協力してやるものだというのが持論であります。ただ、申し上げたいのは、基本的には、まちづくりというのは、行政が行うものであり、民間の私共としては、それに協力をしてやっていくということが、私共の立場だろうと思っております。

いろいろな協力というものがあられるわけですが、通常行政は、それぞれの課題に対して、委員会や検討会、パブリックコメントなどで意見を聞いて、というのが、一般的なやり方ですが、官民共同によるまちづくりというのは、構想の段階から実施する事業に対しても、意見や要望を行っていくことが必要であり、また、出来上がった後の運営・管理についても官民が協力をしながらやっていかなければならないというのがまちづくりだともつていきます。

今、私共が進めております中心市街地活性化とまちづくりについて、認定が受けられたというところによって、国の方針のある枠組にそって、それが、しっかりと守られ、官民が四つに取り組んで進めていくという状況になっているところをご理解いただければと思います。

中心市街地活性化

バブル経済が崩壊したあと、国の経済も地域経済も疲弊いたしました。それをなんとか活性化をさせるためにということ、平成10年に中心市街地活性化法という法律ができました。

た。当初の考え方は、どちらかというと、中心市街地にある商業の活性化というものにかなり偏っていたように思います。具体的には、TMO(タウンマネージメント)オーガにゼーションという組織がいわゆる「ソフト」中心の事業手法で活性化を試みたが、成果が上がらなかったというのが現実でした。もちろん、このシステムが悪かったからではなく、商業(物売り)では、郊外型の大型ショッピングセンターやその後のネット販売の拡大など、構造変化が大きく影響しました。そこで、ただ中心市街地の商業を活性化するのではなくて、まち全体を見て、そのまちにとつての中心市街地というのはどういう役割、そして機能を果たすことが求められているのかをしっかりと捉え、まちの顔、核としてハード、ソフト両面から行っていくという方向へ転換し、中心市街地活性化法、都市計画法、大規模店舗立地法を組合せた「まちづくり三法」によって中心市街地活性化とまちづくりを行っていくものとなりました。

八王子におきましては、平成22年に、中心市街地活性化基本計画を策定し、国の認定に向けて準備を重ねてきましたが、

内閣府との協議において、認定条件を満たさないと判断され、認定申請を一旦断念しました。その後、まちづくり三法によっていろいろ進めている事例を見て

も、単に人口が減少しているとか、歩行量が少なくなっているとか、小売りの売り上げが少なくなっているとかだけで判断するのではなくて、もう少し質的なものを重要視して法律をより幅広いものにしていかなければならないのではないか、ということ、平成26年に法律が一部改正され、認定要件の緩和が図られたことを契機に、再度チャレンジし、認定の可能性が出てきたことを受け、平成29年4月に八王子市、八王子商工会議所、八王子市まちづくり公社の三者で「八王子市中心市街地活性化協議会」を設立しました。基本計画は八王子市がつくりますが、それに多方面からの意見をいただかなければいけないというところで、構成員には八王子市、商業者、道路管理者、交通管理者、地域住民、地域事業者等が参画しています。また、事業を実行する者として、八王子市まちづくり公社(中心市街地整備推進機構)で現在その三者と協議会のメンバーが議論をし

ながら事業の内容を具体的に進めています。

中心市街地活性化の特徴

国による総合的・一体的な支援として、内閣総理大臣を本部長とする中心市街地活性化本部を内閣府に設置し、基本方針の作成や施策の総合調整、事業実施状況のチェック・レビューを実施し、そのもとで、各自自治体がチャレンジをするというスタイルになりました。そして、基本計画そのものに対して、内閣総理大臣の認定を受ける、とその取り組みについて、法律、税制の特例や補助事業により重点的に支援を受けます。そしてもう一つの特徴は、多様な関係者の参画を得た組織をつくってそれを進めなさいというものであります。

八王子市中心市街地活性化認定計画

八王子市が出した基本的な考え方は「居心地が良く歩きたくなる「まちづくり」(八王子のもつ豊かな自然、長い歴史、培われた伝統文化等これらを感ぜてもらえる中心市街地で

あり、別の表現で言えば、八王子のまちは、のんびり、ゆつくり、ほつと出来る空間の演出を行い、そんな中にこのまちの伝統文化を見る、知ることが出来るまちづくりにはベクトルをしつかりあわせ置いておくこと。ということ、要は、八王子の中心市街地というのは、買い物ではなくて、歩いてみたいという、そういうまちづくりをしていくことが一番大事だろうということを考えてというところでございます。また、私共が取り組んでいる重点事業としてひとつは、JR八王子駅前広場の全面的再整備というのがあります。今、お感じになっていると思いますが、大変使いづらい駅前広場になっておりますので、できるだけ修正をしていきたいということ、昨年、西放射線ユーロード側にマルベリーブリッジが延伸しました。これにより歩行者の回遊性や中心市街地の活性化につながりました。費用は大体7億数千円かかりましたが、国から4億4、5千万と大変多額の補助金をいただいております。2番目は、西放射線ユーロードの使い勝手向上のための施策として使い勝手のいいかたちにハード・ソフト両面から直していきたいということです。下の舗装を含めて、ハードの部分としては終わっておりますけれども、これからあ

スペースにできるだけ座り心地のいいベンチを置いて、出来るだけ皆さんが安心してまちの中を歩き、疲れたらそこで休みなगरら、まちの中を回遊できる。そんなかたちの道路に変えていきたい。また、ユーロードはそのものが八王子市の中心市街地の中心道路ですので、ただ、ハードを変えるだけではなくて、使いやすいかたちにしたほうがいいのではないだろうかということ、例えば道路占用の規制緩和（特例）による、オープンカフェの設置、店舗前スペースの活用などソフトの面を改善していくという形で進めているところでございます。3番目は八王子の伝統文化ですが、ちょうどまちの真ん中に中町があり、そこには花街があります。この花街そのものを新なかたちで再整備をして、一言でいうと「昼の顔をもった花街」というものに直していくことが必要ではないだろうか。ということ、これは、これから事業を着手して、来年の3月には工事を終わりたいと思っております。そして、トイレ休憩所でございます。これは、昨年の10月の3日にすでに完成をしております。中心市街地の中に初めてトイレ休憩所ができたということでございます。これは長年の念願であります。当クラブ名誉会員の黒須前市長も現役当時お骨

折りをされました。この事業は、土地を取得するということが難しく出来なかつたんですが、今回幸いに土地が取得できましたので、まずはこの施設を早く造ろうということ、昨年10月3日に完成、オープン致しました。このような重点事業を進めております。ちなみに八王子の中心市街地はどのくらいの面積かということ、115 haあります。国に申請してあります。これは、波多野市長時代に決められました。私が、私は会議所のメンバーとして当時の委員会に参加した時に115 haは大きいのではないかと意見申し上げましたが、結果的には今見ますと、旭町、明神町地区にこれから大きな再開発が始まるということも考えてみても、この程度の広さがあってよかつたと思っております。又、まちづくりという事業は造つて終わりではありません。その後をどのように運営・管理していくのかというエリアマネジメントという手法を取り入れ、地元を中心として管理していくというスキームを作りたいと思っております。最後にありますが、これから、旭町・明神町の再開発というプロジェクトがあるわけですが、先程お話しした国の認定というのは五年間という期限が付いてお



外観写真

まち・なか

1皆は、**まち**に来る人々や**なか**が集う 憩いの場（スペース）として
2皆は、**まち**で暮らす人々が、**なか**と一緒に芸術・文化に触れ、親しむ場（スペース）としてまちなかの賑わいに繋がる施設「**まち・なか**」
八王子市中町 12-11-1



り、平成30年に取りましたので、そこから5年間の中で完成をさせ、その結果として完成をした物ができた事によって、中心市街地の人通りが増え、お店の売り上げが増えた等の成果をしっかりと出し、国に報告し、評価を得ると次のプロジェクトに対してあらためて国の認定を受けられる権利をとというスキームでございます。ですので、この事業は大事な、言うなれば一番バッテリーです。関係する皆様にご協力をいただいて、計画は絶対ずらすことなく、きつと完成させるという見通しがついたところでございます。

例会報告

第26636回・2021・4・16(金)

◇司会 秋間会場監督補佐



司会
秋間会場監督補佐

◇開会点鐘 金子裕二会長

◇Rソング

それでごそロータリー

◇お客様のご紹介

合同会社TONTON

管理栄養士 早川洋子様

◇食事と交歓 中華

◇出席報告 淵上出席委員長



出席報告
淵上出席委員長

会員109名中69名出席。
出席率69・70%。前々回4月
2日の出席率71・72%を80・
81%に修正します。

◇ニコニコ発表

久保財務副委員長



ニコニコ発表
久保財務副委員長

◇会長挨拶 金子裕二会長

*先ほど原副幹事から松山英樹選手の優勝の話はしないの



会長挨拶
金子裕二会長

か?と聞かれました。あまり詳しくはないのですが、ゴルフですごく難しいと改めて思いました。またプロの方でも池ポチャするということにも驚きました。

*アイススケートの羽生結弦選手の手が4回転が素晴らしかったです。

*コロナでなかなか外に出られないので家でテレビを見る人が多いです。よく見るのはストリートピアノの番組です。自分は弾けないので、ピアノを見た途端にすぐ弾こうとする姿勢がすごいと思います。

*NHKでドキュメント72時間という定点観測のような番組があり、いろいろな思いを持つ人たちが様々な人生を生きているのを見るのが好きです。また同じNHKの火野正平の自転車旅の番組もよく見ます。コロナ禍が落ち着いたらあちこち出かけたと思っています。

◇幹事報告 原啓一郎副幹事



幹事報告
原啓一郎副幹事

*読書感想画・感想文コンクルの冊子を受付に置きました。また事務局に少し部数があるので、ご希望の方はお申し出ください。

*エジプトからの米山奨学生はまだ入国できていない状況です。進展がありましたら報告いたします。

◇御礼と報告

福山眞吾地区副幹事



福山眞吾
地区副幹事

◇スピーカー紹介

西川誠治プログラム委員長



スピーカー紹介
西川プログラム
委員長

スピーカー 田辺隆一郎会員
テーマ 「中心市街地の活性化とまちづくり」

◇閉会点鐘 金子裕二会長



◇2021・4・16(金)

◇金子裕二会長・田辺パスト会長の卓話楽しみにしています。

◇中村幹事・田辺隆一郎パスト会長の卓話、楽しみにしています。が所用で出席できません、残念です。

◇早川洋子・来週卓話宜しく
お願い致します。

◇三浦・過日の激励会には、金子裕二会長始めパスト会長以下、大勢の会員にご参加・お手伝いを頂きありがとうございました。東京八王子西ロータリーの名を汚さぬよう頑張ってください。

◇杉本・田辺パスト会長の卓話楽しみにしています。

◇櫻崎・田辺パスト会長の卓話を楽しみにしています。

◇石井・田辺さんのお話し楽しみにしています。

◇黒須弘道・田辺パスト会長の卓話楽しみにしています。

◇塚本・本日の卓話、田辺会員ご苦労様です!

◇大石・田辺さんの卓話楽しみにしています。

◇黒須隆一・田辺隆一郎会員の卓話楽しみにしています。

◇西川・本日の卓話を田辺パスト会長にお願い致しました。

◇福山・13日に三浦眞一ガバナリーエレクトの激励会を開催し、金子裕二会長を始めパスト会長さんにご出席頂きありがとうございました。又、金子裕二会長からは参加者にお土産までも頂戴し、ありがとうございました。

◇田辺・卓話をいたします。
(順不同・会員敬称略)

東京八王子西ロータリークラブ

〒192-0083 東京都八王子市旭町14番1号 京王プラザホテル八王子 8F

TEL.042-649-3751 FAX.042-649-3753

http://www.hachioji-west-rc.org

会長 金子裕二 幹事 中村晋也 広報委員会 原巖 浅川立憲 小林孝行 山本正光 相川博 末木博 伊藤則久 町田修一



皆様の投稿をお待ちしております。お気軽にお寄せください。

アイデアを上げよう : www.rotary.org